

区民
かわら
版

山科の魅力発見ツアー 参加者募集

区内を歩きながら山科の魅力を探して応募しませんか。区民ボランティアが案内します。

5つのコースを予定しています

- Aコース：山科駅～御陵、花山方面
- Bコース：山科駅～安朱、四ノ宮、音羽
- Cコース：山科駅～竹鼻、中央公園方面
- Dコース：区役所～大宅、大塚方面
- Eコース：区役所～柳辻、西野山方面

日時 3月7日(土)午前9時～正午ごろ
(小雨決行)

定員 各コース20名

費用 無料

申込方法 2月17日(火)～27日(金)に、区まちづくり推進課まで直接来所。先着順。

山科の魅力 “ええとこ・ええもん” 大募集

区民委員や学識者等からなる「山科魅力発見プロジェクト」では、区民の皆さんが親しみ誇りとし、未来に伝えたい山科の魅力“ええとこ・ええもん”を3月末まで募集

しています。ご応募お待ちしております。応募を元に「山科魅力発見プロジェクト」において決定し、冊子などにまとめて公表する予定です。

問合せ先 山科魅力発見プロジェクト—ええとこ・ええもん in 山科—
区まちづくり推進課 (☎592-3088) まで

地域福祉を考えるシンポジウム

高齢者や障害者等、災害時に配慮が必要な方への対応の仕方、そのためのネットワークづくりを考えるシンポジウムを開催します。

京都市福祉ボランティアセンター所長 平田和洋氏がコーディネーターです。

多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

日時 2月26日(木)
午後1時30分～3時30分

場所 区大会議室

定員 約100名

申込方法 当日先着順

問合せ先 区支援課支援第一係 (☎592-3247)、区社会福祉協議会 (☎593-1294)



山科積慶園が竣工しました

師走の寒さが少し和らいだ晴天の12月18日、山科区で5箇所目の特別養護老人ホームとして「山科積慶園」が北花山大林町に完成し、竣工式が行われました。

本格的な長寿社会を迎える現在、高齢者の福祉ニーズに応えるため設立されたこの施設は、全室ユニット型個室で、10室ごとにリビングを囲むように居室が配置され、



一人ひとりの個性を尊重しながら、家庭的な雰囲気の中で介護が行われます。

また、ショートステイやデイサービス、居宅介護支援事業所も併設されています。

地域の方々が温かく見守る中、設立されたこの施設は、今後、高齢者のための福祉施設として根付いていくことが期待されています。

問合せ先 山科積慶園 (☎583-6277)、市長寿福祉課 (☎251-1106)



山科区民ごみ減量 ECOバスツアー



この事業は
家庭ごみの有料
指定袋収入が
使われています



—ごみの行方を探検しよう—

私たちの生活と切っても切り離せないごみ。市では、暮らしに身近なごみ問題を見つめ直し、ごみ出しマナーやごみ減量に取り組むきっかけとして、ごみ処理施設の見学会を開催します。是非、ご参加ください。

山科区役所(集合)→南部資源リサイクルセンター→横大路学園→廃食用油燃料化施設→山科区役所(解散)

日時 3月19日(木) 午後1時～5時

集合及び解散場所 山科区役所正面玄関

定員 30名

費用 無料

対象 区内在住の方

申込方法 京都いつでもコール(☎661-3755)まで電話。2月20日(金)から受付開始。先着順。

問合せ先 市循環企画課 (☎213-4930)

DO YOU KYOTO?

毎月16日は、環境にいいことをする「DO YOU KYOTO?」の日。身近なところから、環境にいい取組を実践しましょう。



問合せ先 市地球温暖化対策室 (☎211-9281)

山科の古代を探る

第5回 勸修寺



山科区最南部の勸修寺地区に、勸修寺という閑静な門跡寺院がある。町名は「かんじゅうじ」、寺名は「かじゅうじ」と読み、またかつての勸修寺村は「かんじゅうむら」だったらしく、かなりややこしい。勸修寺が建てられたのは平安時代前期(九世紀末)のことで

あるが、当時どのように読まれていたかは、今となってはよく分からない。

勸修寺の創建については、いくつかの説話が伝わっている。渤海の外交使節が平安京にやって来たとき、この場所が霊地であることを見抜き、寺を建てればその家は大いに栄えるであろうと予言した。やがて藤原高藤という青年貴族がこの地を訪れた。雷雨に遭って道に迷った高藤は、宮道弥益という土豪の屋敷に泊めてもらい、その娘との間に姫君をもうけた。この姫君こそが、後に入内して醍醐天皇を生んだ藤原胤子であったという。つまり醍醐天皇の母方の祖母は、山科の土豪宮道氏の娘だったことになるのだが、『今昔物語集』によれば、この土豪の屋敷を寺院に改めたのが勸修寺の始まりであった。

これらはあくまで説話であるが、

信頼できる史料を調べてみると、勸修寺は確かに藤原胤子が醍醐天皇のために建てた寺院であり、その際には宮道弥益が様々な支援したことが分かる。また、勸修寺の東南に今も鎮座する宮道神社には、宮道氏の霊神が祀られていた。つまり、勸修寺が宮道氏と深いつながりを持っていたことは、疑いのない事実なのである。

こうして勸修寺は着々と堂塔を整えていき、高い寺格を獲得した。周辺には藤原高藤夫妻、娘の胤子などの陵墓が築かれ、宮道神社背後の鍋岡は「先祖の芳骨」を葬った地として崇拝された。このような歴史に照らせば、勸修寺から程近い地に、醍醐寺(醍醐天皇御願寺)や醍醐天皇陵が営まれたことも、誠に自然な成り行きと言える。

勸修寺はその後、藤原高藤の子孫たちに受け継がれ、一門の精神



的つながりの核となった。彼らは勸修寺(かじゅうじ)流藤原氏と呼ばれて、渤海使の予言どおり、中・近世を通じて公家社会で重きを成し続けたのである。寺は応仁の乱で被害を受け、豊臣秀吉によって縮小されたというが、江戸時代に復興の手が差し伸べられた。今も勸修寺の周辺には、醍醐天皇の母方氏族たちの歴史が、小さな断片となってそこかしこに残されている。

京都大学大学院文学研究科

吉川真司教授執筆